

鳥小アップあっぷウィーク！（相互授業参観）

～学校全体で児童を指導するために～

①【目指す姿・目標】

- ◇本校において、『授業は日常的にいろいろな教職員が自由に入り込み、相互に参観するもの』という文化が、教職員にも児童にも形成される。
- ◇全教職員で、全学級・全児童の状況（課題）を把握し、学校で生じている各学級・児童の課題を教職員一人ひとりが『自分事』として主体的に取り組むことができる。
- ◇職員室を始め、教職員の集うあらゆる場所で、日常的に児童についての情報や具体的指導法について協議が行われ、教職員同士の指導力や同僚性・協調性が高まっている。
- ◇参観者から授業者へ、普段の授業における指導及び発言のポイントや工夫、児童把握の方法、集団づくりなど、教職員の個性・特性を生かした指導方法の伝達が丁寧に行われ、児童の『生きる力』が育成される。

②【実施時期】

- 年間通して授業参観を可とする。（参観をする際は、参観シートに記入する）
- 年間3回（各学期2週間ずつ）の参観強化週間を設定する。

③【実施方法・内容】

- 『当たり前前（のこと）を、当たり前前にできる児童の育成』に向けて、『あしへそはい表彰システム』を活用し、授業中に姿勢・発表・聞き方が良い子など普段の授業を頑張っている児童に対し評価をしていく。
- 教師が参観しやすいように、また児童が意識できやすくするため、ポスター及び参観シートを①職員室内②職員室外③児童玄関掲示板（ポスターのみ）④2階中央階段掲示板⑤2階PTA室横掲示板（ポスターのみ）⑥3階中央階段掲示板に配置する。
- 時間割一覧を参考にし、見たい教科、学級がある場合は、自習課題を作成する。参観時間の設定が難しい場合は、管理職が自習監督するなど協力するので、自習課題等準備し補欠担当教員に相談する。
- 教職員及び児童会役員から『鳥小アップあっぷウィーク！（相互授業参観週間）』は、鳥飼小学校の全ての先生たちが、今まで以上に児童の皆さんの頑張っている姿を知るために行う。」「お互いの授業を見合う事で、児童の皆さんの授業をより良くするために行う。」など、全児童に伝える。⇒放送委員会に依頼し、給食時の校内放送で周知。
- 小中一貫（連携）教育を推進するために、五中校区にも周知する。

※この文書は校内資料より一部抜粋して作成しました